

投資事業評価調査(継続:再評価)

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 多田 智 (主幹兼国道係長 北村 昭二)	内線	4362 (4374)
事業種目	道路事業	事業名	事業区間	総事業費	104億円
		国道173号道路改築事業 平野山下拡幅	川西市平野～山下	内用地補償費	72億円
所在地	事業採択年度	着工年度	完成予定年度	進捗率 (内用補進捗率)	約96% (約97%)
川西市平野～山下	H8	H8	H18	残事業費	4億円
事業の目的		事業内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・国道173号は、丹波地域と阪神地域を連絡し、名神高速道路、第二名神高速道路、阪神高速道路等をネットワークする幹線道路である。 ・しかし、川西市北部地域では、宅地開発等による都市化の影響で交通量の増加が著しく、歩道未整備区間もあるため、慢性的な渋滞が発生している。 ・そのため、4車線拡幅整備により、交通渋滞の解消、自転車歩行者の安全確保等を図る。 		道路改築事業 L = 4,080m (平野工区:L = 2,575m、山下工区:L = 1,505m) 【計画幅員】13.0(24.0)m(4車線+両側歩道) 【現況幅員】6.0(7.0)m(2車線+歩道無し) 【計画交通量】41,600台/日(H42年度推計) 【現況交通量】20,745台/日(H11交通センサス) 【負担割合】国:1/2 県:1/2			
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・平成11年度に第二名神高速道路が新規事業着手され、平成13年度新規事業着手した(一)川西インター線を経由して栗畦野交差点で本路線に接続予定。 ・用地買収が早期に完了することから、完成予定を1年前倒しする。 ・用地単価下落等の影響で事業費が約13.4億円減少した。 				
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・H8年度から事業着手し、全区間において用地買収に着手。 ・H15年3月に約0.5km、H15年10月に約0.5km、平成16年1月に約0.5km、平成16年8月に約0.3km、平成17年5月に約0.6kmを供用(平野工区完成)。 ・用地買収率は97%を越えており、早期事業効果を発現するために、土地収用法に基づく事業認定手続きを進めており、H18年度前半までに用地買収を完了させる。 				
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 渋滞の解消 安全・安心の確保 地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・川西市北部地域においては、住宅開発等による都市化の進展が著しく、国道173号の交通量も2万台/日を越え、道路の交通容量不足に起因する慢性的な交通渋滞が発生しているが、当該区間を整備することでこれを解消することができる。 渋滞状況：混雑度 1.51、旅行速度 32.3km/h(休日7.9km/h) ・緊急輸送路に位置づけられており、防災面での必要性は高い。 ・自転車歩行者道を整備することにより、歩行者や自転車の安全が確保できる。 ・当該区間の整備により、第2名神高速道路等の高規格幹線道路と一体となって広域的な交通ネットワークを形成する国道173号の機能強化が図られ、地域間交流を促進し、観光や産業の発展に寄与する 				
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画決定されているルートである。 ・H18年度前半までに用地買収を完了する予定であることから、H18年度完成に向けた円滑な事業執行が可能である。 ・費用便益比 B/C = 2.8 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞を解消することで、沿道の生活環境が改善される。 ・車道部に低騒音舗装、歩道部に透水性舗装を施工し、環境への影響を最小限とする。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業の実施により、国道173号の整備が完了し、川西市北部地域の渋滞解消が図られることから早期完成が望まれる。 ・H18年度前半までに用地買収完了予定であり、H18年度末に全線供用可能である。 				
再評価の結果	継続	左の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗が約96%であり、平成18年度完成の見込みが立っていることから、継続して事業を実施する必要がある。 		